

リレー連載生ヒストリ—温故知新

第13回 甕 滋 さん (50期)

終戦直後、旧制上田中学最後の入学生で、卒業（50期）して上京後長い間同窓会には関心がなく無縁に過ごしました。退職して暫くたって、当時の関東同窓会山崎延秋会長（48期）や同期の半田修一郎君らの強力な勧誘で会長に就任しました。1990年代後期、同窓会運営経験ゼロのスタートです。副会長は経験豊富な同期にお願いしました。関東同窓会創設にかかわった先輩もご健在で、その気概や思い入れに接することができたのは懐かしい思い出です。

同窓会にはそれぞれの人生の原点、郷土や母校への思いを共有する人々が集います。出自、経歴や世代を超えてそれを絶え間なく継承発展させるところに意義があります。当時はこの会が同好有志の熱意に支えられた当初の結びつきを継承し、より若いOBや増加するOGを加えた幅広い組織へと発展する新しい時期にあったと思います。それには卒業生が普通に、参画しやすい活動の多様性や母校とのつながりを深めるなどの工夫が求められ、各期や部活の同窓会などとの連携も必要でした。こうしたことに専心取り組んでいただいたのが堀内忠久幹事長（53期）でした。組織、活動の基礎となる名簿のデジタル化、母校に会員の著書を送る運動、女性会員の会合などに業績を残しています。ただ、就任任期で成し遂げることは限られます。課題に引き続き挑戦してもらおう期待をもって次期丸山瑛一会長（51期）にバトンタッチしました。

退任後は相談役として古株が邪魔にならないように心掛けたところですが、歳月で、近頃ご縁も薄れたのはやむをえないことです。しかし、有難いことに定期的に届けられる会報で様々な活動が活発に展開されている様子や母校の近況を知ることができます。この会は就任当時より間違いなく立派に成長したものと大変うれしく思います。歴代の役員をはじめ、各期の幹事の皆さんに敬意を表し、関東同窓会が一層発展するよう祈ります。